

学校づくり，人づくりを確実にする学校評価の工夫 ～保護者の信頼を確保し，教育改善を進める学校評価の活用～

千葉県銚子市立本城小学校 加田 純二

I 現状と課題

1 現状認識

現代は少子高齢化が言われ、本市でも急激な少子化が進み、中学校の統合も進んでいる。児童数が少なくなる中、逆に教育に関する関心は高まっている。学校の教育活動に対して保護者の信頼を得ることで、教育活動を円滑に進め、日々の教育活動をより効果的に進めることができる。

本校の児童数も年々減少している。(H30年度全校児童37名)しかし、近年学区在住の児童の一部が市中心部の学校に入学することでさらに児童数が減少する状況があり、地域でも課題となっている。そのため保護者の信頼を得ることは一層重要になっている。

2 課題分析・アプローチの視点

学校評価の活用によって、全職員が一つの方向に向かって教育改善に取り組み、保護者の信頼を得ながら、よりよい学校づくりをしていく。また、教育改善していく取組の中で人づくりをしていきたい。

II 研究の概要

1 学校評価の実際

(1) 学校評価アンケートの実施回数及び時期等

- ① 実施回数：年2回（7月，12月）
- ② 内容：自己評価（教職員，児童，保護者）
学校関係者評価（学校評議員）

R・P・D・C・A（調査・計画・実施・評価・改善）サイクルの確立を目指す。

(2) 評価項目について

○学校教育目標に照らして、前年度の項目から大きく変更しない。また、自由記述欄を設ける。

(3) 評価の考察及び結果の活用について

- ① 集計・分析及び考察（過去3年間の平均と比較）
- ② 必要に応じた調査
- ③ 改善策の検討
- ④ 学校関係者評価の実施
- ⑤ 学校だよりとホームページによる公表

2 よりよい学校評価のための手立て

(1) 学校評価のための情報提供及び情報収集

保護者や地域の方に学校評価をしてもらうためには、学校の様子を積極的に知ってもらうことが必要になる。行事等、様々な機会を利用して、情報を提供するとともに、情報収集の機会としている。

- ① 授業参観・学校公開
教育活動の公開と批評箋等での意見集約
- ② 学校だよりの発行
保護者への配付と町内回覧による情報提供
- ③ 外部講師による授業

外部講師による児童への指導と地域への教育活動の情報提供

- ④ 地区連合大運動会の実施
地区と一体となった運動会による教育活動の情報提供
- ⑤ 1000か所ミニ集会の実施
地域の方や保護者から学校への意見等の収集
- ⑥ 豊岡地区教育後援会の開催
地域の諸団体をまとめた会議での情報提供と意見の収集

(2) 教育改善に向けて

- ① 分掌・担当による考察及び改善策の検討
- ② 再調査による原因の明確化
- ③ 目標の共有と協働による取組

3 学校評価と人事評価との関わり

学校評価を生かすためには、学校評価の結果と改善の方向、そして学校教育目標について全職員が意識していることが大切である。8月に人事評価のための中間面談を実施し、前期学校評価の結果を活用することで、より具体的な指導・助言を行い、後期に向け教職員の意欲を高めるとともに、人材育成の手立てとしている。

III 成果と課題

1 成果

- (1) 学校評価で肯定的評価となった項目を意識することで、職員の自信につながった。
- (2) 学校評価の結果を詳しく分析することで学校環境等の市教育委員会への要望事項がより明確になった。
- (3) 前期学校評価の結果を受け改善に取り組んでいることについては、学校だより等で保護者に知らせている。後期の学校評価の結果は概ね前期より向上している。

2 課題

- (1) 保護者に学校の様子を見ていただく機会を、職員の負担も考慮しながら、さらに作っていきたい。
- (2) 教育改善では、学校から保護者への働きかけも必要となる。その上で、保護者と連携しながらよりよい教育ができるようにしていきたい

IV 提言

1 校長がリーダーとなって、学校評価のR・P・D・C・Aサイクルを確立し、機能させ、結果と課題の共有、チームとしての協働等を進めていくことで、保護者からの信頼を高められ、人材の育成にもつながると考える。

2 学校評価をより活用できるものにするために、学校の情報を提供していくこと、また、校長自ら積極的に保護者に働きかけていくことが大切である。